

ワークショップ 「ウマスギゴケの移植・育成」

ウマスギゴケ (*Polytrichum commune*) の生態

ウマスギゴケはほとんどの苔庭で見られる種類です。ウマスギゴケを育成する時は、以下の3つの要点を考慮して管理を行います。

- 1、ウマスギゴケは太陽光を好みますので、日当たりのよい場所で育てます。
- 2、ウマスギゴケは水分を好みますので、雨の当たる場所、もしくは水の流れに近い場所、池の周囲などが適しています。もし、条件の合う場所が見つからない場合は、人工的に水をやって育てます。
- 3、ウマスギゴケは培土の中に繁殖する仮根から新芽が発生して増えて行きます。仮根を傷めないように育てることが丈夫な苗を育てることになります。



上：休耕田、河川敷で繁殖

下：長く伸びた株、全長 18 cm、仮根から伸び出した新芽



ウマスギゴケ (Polytrichum commune) の移植

容器：金魚鉢（プラスチック製） 1 個

培土：赤玉土（小粒） 1 リットル

苔苗：ウマスギゴケ（らんぽく苔の郷の栽培苗） 適量



- 1、金魚鉢に赤玉土（小粒）を少量投入します。
- 2、ウマスギゴケの苗を赤玉土の上に配置します。
- 3、ウマスギゴケの苗の培土と金魚鉢の隙間に赤玉土を投入します。
- 4、金魚鉢に水をたっぷりと入れます。

ウマスギゴケ (Polytrichum commune) の育成管理

- 1、明るさ：日の当たる場所であればどこに置いても構いません。屋内でも育てることができます。その場合、窓際などの明るい場所に置いて下さい。日が当たって温度が上がっても、ウマスギゴケは大丈夫です。
- 2、水分：雨の当たる場所であれば、ほとんど水をやる必要はありません。もし、10 日以上、雨が降らないときや、屋内で育てる場合は、金魚鉢の水分量を見ながら、少なければ水をやりまます。水のやり方はジョウロを使用して柔らかく、金魚鉢からあふれるほど、たっぷりとやりまます。今回のワークショップは金魚鉢を利用して育てまますので、水の抜けない容器を使用して、十分な水分供給としています。（注：このやり方は苔神工房のオリジナルです。）
- 3、新芽：ウマスギゴケは毎年、培土の中の仮根から、たくさんの新芽を出し、こんもりとしたコロニーを形成するようになります。3 年以上経過して古くなった株は、抜け落ちたり、倒れることがあります。そうならないように、茎の高さが 10 センチ以上になったら、5～7 cm の高さに揃えて上部を刈り取って下さい。上部を刈り取ると、その株は死んでしましますが、仮根から伸び出す新芽が世代交代で伸び出し、コロニーを修復・形成します。
- 5、その他：雑草などが生え始めたら、早いうちに除去して下さい。雑草の根を残さないように引き抜いて下さい。

苔の育て方 「栗原苔フェスティバル 2026」講習資料

JMTA 日本苔技術協会

苔アドバイザー 北川義一 監修